

## 第2回 第5期中海自然再生協議会 議事録（案）

日時:平成 27 年 11 月 3 日(火・祝) 9:30~12:00

場所:米子コンベンションセンター 第3会議室

協議会の開催前に、毎回恒例となっている自然再生に関する情報の共有化の一環として、以下のような公開講演会を行った（参加者数：委員 31 名、オブザーバー10 名）。

### 公開講演会(9:30~11:00)

「中海の自然再生と『湿地の文化』」

講師:笹川孝一氏(法政大学キャリアデザイン学部教授)

講演会では A4 で 6 枚となる資料が配布され多岐にわたる内容の講演となったが、特に、「湿地の文化（と技術）」という考え方の重要性や、ウルグアイでの第 12 回締約国会議の特徴として、①人々の暮らしの向上との関連性を一層重視されていたこと、②湿地の多面的マネージメントのための「総合的な力量形成」(capacity building) が CEPA の目標に入ったことなどが挙げられた。また、中海自然再生協議会の活動については以下のような感想が述べられた。(1)熱心に議論して希望が持てる、(2)自然再生協議会の取り組みと自然再生センターの取り組みとの重ね合わせが大事？、(3)斐伊川集水域という視野での連携がさらに必要？、(4)地域活性化、地域づくり、地方創成の全体計画に位置づける視点もあってもよいか？、(5)因幡風土記、出雲風土記、古事記、神社の言い伝え・縁起などの物語・伝説・神話との結びつきもあってよい？、(6)中海・宍道湖・斐伊川・日本海という集水域の新たな物語を作って、子供、若者、女性、大人、年寄りが誇りを持って活用し、大切にし、地域の技と知識を智慧・教養・誇りを高めていく、軸のひとつと成る？

講演時間は予定よりも短かったが、30 分を越える質疑応答の時間で参加者から多くの質問が出、講演会は定刻に終了した。

11 時からの協議会では、事業の進捗状況と今後の事業の進め方などについて討論した。来年度が第 1 期実施計画の最終年度であることから、次期の実施計画についても討議すべき時期であり、委員からは次のような意見が出た：自然エネルギーを用いた密度流あるいは河川水を用いた底質の貧酸素対策を行う必要があること（について）、本庄水域については森山堤の開削モニタリング結果を踏まえて大海崎の開削を求めていくべきであること（求める必要があるのではないか）、これまでの 1 期計画の総括が必要であること、流域全体で考える視点が必要であること。さらに、ワークショップを開催し、したいことを吸い上げる仕組みが必要ではないかという意見に関しては、環境省から「大山隠岐国立公園大山蒜山地域連絡協議会」でのビジョンづくりの例が紹介され、中海自然再生協議会でも幅広に意見を集約してビジョンを立ててはどうかという提案がなされた（意見がだされた）。